



菅首相が辞意

震災対応めど付け

民主の分裂回避狙う

菅直人首相は2日、国会内で開いた民主党代議士会で、東日本震災対応で一定のめどが付いた段階で退陣する意向を表明した。「私がやるべき

役割が果たせた段階で若い世代に引き継いでいただきたい」と述べた。事実上、内閣不信任決議案採決をめぐり民主党内の混乱が拡大した責任を取

ったとみられる。不信任案採決の前に、民主党の小沢一郎元代表や鳩山由紀夫前首相ら大量の議員が造反の意向を表明。仮に否決された場

合でも党分裂は避けられず、これ以上の政権維持は困難と判断した。首相の退陣表明を受け、野党の不信任案に同調する意向を示していた

鳩山前首相は代議士会で菅首相との会談で、東日本震災復興基本法案を成立させ、2011年度第2次補正予算案にめどをつけた段階での首相退陣で合意したことを明らかにした。不信任案には反対する方向だ。



代議士会長

民主党代議士会で辞意を表明する菅首相＝2日午後、国会

菅内閣は鳩山前首相の退陣を受けて昨年6月8日に発足。小沢氏と距離を置く「脱小沢」路線で内閣支持率のV字回復を果たしたが、7月の参院選は菅首相の唐突な消費税引き上げ発言が響き、惨敗した。

9月の民主党代表選で首相は小沢氏を破り再選されたものの、尖閣諸島周辺での中国漁船衝突事件の対応で迷走。今年1月に再改造内閣を発足させた後も求心力は回復せず、大震災や原発事故をめぐる後手後手の対応で批判を浴びた。